

NPO 法人全日本シニアアンサンブル連盟 広報誌

# ひびきあい

## 年頭のご挨拶

NPO 法人全日本シニアアンサンブル連盟 理事長 松永恒文

新年あけましておめでとうございます

皆さまにとって、健やかで音楽に満ちた一年の始まりとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年2025年は、国内外でさまざまな出来事がありました。また夏の記録的な猛暑が続き、体調管理に気を配る日々でした。そんな中でも、皆さまが音楽への情熱を絶やすことなく、仲間とともに楽器を手に取り、演奏の喜びを分かち合ってくくださったことに、深い敬意と感謝の気持ちを抱いております。

ここで昨年の活動を振り返ってみたいと思います。1月31日には、各団の代表者と理事が集まり、第28回通常総会を開催しました。

5月26日には、第4回楽器別交歓会を葛飾シンホニービルズのアイリスホールで開催しました。全国大会のない年の交流の場として、加盟団体の団員80名ほどが集まり、弦楽器・管楽器に分かれて演奏を楽しみました。事前の準備会から当日の運営まで全てを担当して下さった皆様に感謝申し上げます。

9月の第3回理事会では、来年の全国大会の「全国大会実行委員会」と「ひびきあい編集委員会」を新しく設けました。これら2つの委員会は、それぞれ個別の会合を持ち、動き始めています。本誌、



ひびきあい90号は、この編集委員会です。最初の版になります。また、岡村名誉理事長のご尽力と賛助会の支援で静岡県では初めての「三島シニアアンサ

ンブ」が10月23日に発足し、全シ連に加盟しました。まことに喜ばしいことです。

さて今年の目標は、第18回シニアアンサンブル全国大会(市川大会)を成功させることです。この大会では、日頃直接聴けない楽団の演奏を見聞きすることができ、且つ交流もできる良い機会です。出演されない楽団の方も大勢お出で下さい。最後には全体合奏もあります。

全シ連の活動の大きな柱の一つとして国際交流があります。コロナ以来途絶えておりましたが、昨年、台湾との交流の足がかりが見えてきたところですので。

更に、新規楽団の設立もいくつか計画中です。いつでもどこでも、シニアアンサンブルを設立すると、「このような楽団ができるのを待っていました」と皆さん仰います。シニアアンサンブルに対する潜在的な需要は全国にあります。現在の楽団に遠方から通っている団員の方で、地元でもシニアアンサンブルを作りたいと希望される方は、是非ご連絡下さい。全シ連では全面的に協力させていただきます。

最後になりましたが賛助会の皆さまのご支援に対して厚くお礼を申し上げます。お志は、新規楽団の支援や全国大会などに活用させていただきます。

2026年はより多くの方々と音楽の喜びを分かち合える一年にしたいと願っております。健康第一で、無理なく、楽しく、そして心豊かに活動を続けて行きましょう。